



一人ひとりのいのちが尊重される社会をめざして

公益財団法人宮崎県移植推進財団は、臓器移植に関する知識の普及啓発や臓器提供に関わる医療機関への支援など、臓器移植を推進するために必要な事業を行い、もって県民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とした県内で唯一の機関です。

みやざき“いのちのリレー”ポスターコンテスト2023 入賞作品

臓器移植は善意による臓器の提供があって成り立つ医療であり「いのちのリレー」とも呼ばれています。

県民の皆さんに臓器移植について考えていただくため、臓器移植をテーマとしたポスターコンテストを一般社団法人宮崎県腎臓病協議会と共催して昨年度に引き続き実施しました。

県内の中高生から118点の応募があり、審査の結果、入賞作品7点が選定されました。

最優秀賞

宮崎日本大学高等学校2年
長友 優菜 さん

みやざき“いのちのリレー” ポスターコンテスト2023

- 主 催
(公財) 宮崎県移植推進財団
(一社) 宮崎県腎臓病協議会
- 募集期間
令和5年7月24日～9月8日
- 表彰式
令和5年10月29日(日)
宮崎市民プラザで開催された「腎臓移植
フォーラム 2023 in みやざき」において表彰



優秀賞



宮崎県立佐土原高等学校2年
山本 優衣さん



日向市立富島中学校1年
中尾 結芽さん

特別賞



宮崎県立佐土原高等学校2年
中田 美桜さん

佳作



日向市立富島中学校1年
中谷 心美さん



高鍋町立高鍋西中学校1年
安藝 ナミさん



宮崎市立木花中学校2年
山中 彩結さん



審査の様子

応募いただいた作品からは、若い世代の方々が臓器移植について調べ考えた上で、「命のつながり」や「思いやりの心」、「臓器提供の意思表示の大切さ」などを表現しようという思いが伝わってきました。

入賞作品は臓器移植普及推進月間である10月にイオンモール宮崎と県企業局県電ホールギャラリーで展示を行いました。今後も臓器移植医療の啓発に活用していきます。



ポスター展 (イオンモール宮崎)



医療法人 養気会
池井病院



お問い合わせは

(0984) 23-4151

〒小山市真方 87 番地



社会医療法人同心会 地域医療支援病院
古賀総合病院

〒880-0041 宮崎市池内町数太木 1749-1
TEL 0985-39-8888 FAX 0985-39-0067



臓器移植法に基づく脳死になった人からの臓器提供が、令和5年10月下旬に1,000件に達しました。1999年に高知赤十字病院で本邦初の脳死下臓器提供が行われてから24年の年月を経ての達成であり、テレビや新聞などでも大きく報道されました。

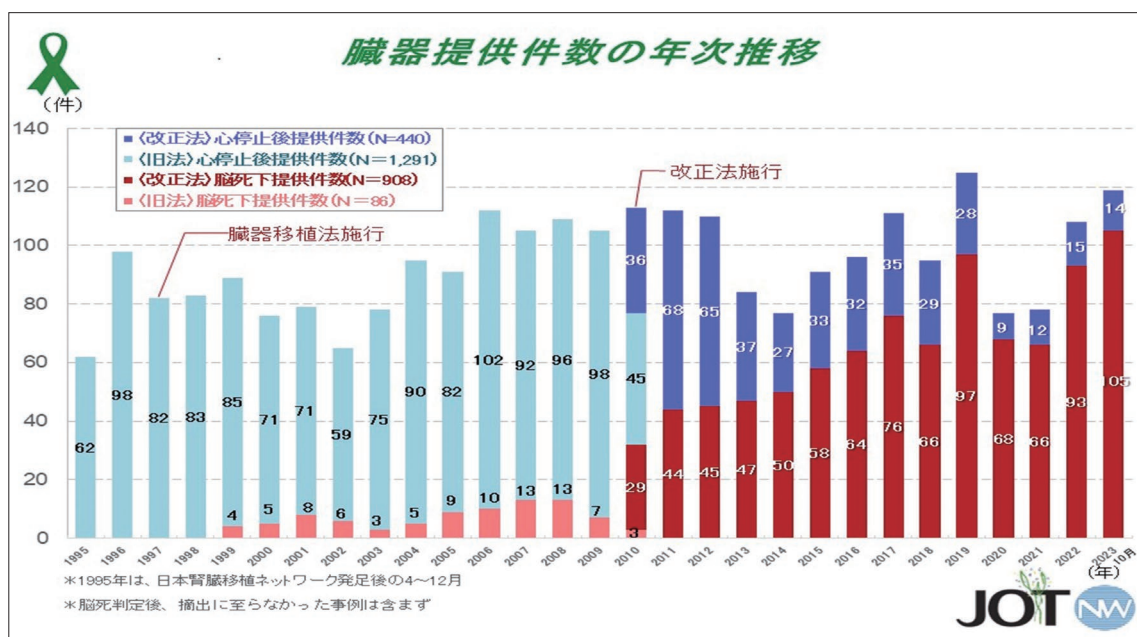
脳死下臓器提供が実施された場合は、全て報道機関にその概要が公表されています。これは、脳死下での臓器提供と移植手術が適正・公平に行われていることを国民の皆さまに知っていただくために行われています。この背景の一つには、1968年に札幌医大で行われた日本初の心臓移植が「密室でおこなわれた」「提供者の脳死判定も、移植患者の選定もすべて移植した外科医がおこなった」など批判をうけ、結果として、“脳死”という病態や臓器移植という治療法に対する不信感が根強く残っていることがあります。

医療行為は患者さんのプライバシーに属し外部への公表は控えるべきものですが、脳死下での臓器提供の透明性を確保する観点から、当該患者とご家族のプライバシー権を侵害せず、個人が特定されない範囲で公表することとされています。

臓器提供者（ドナー）のご家族が、家族を送り出す時間を爾々と過ごしたいと思う中で、このような臓器提供に付随する事柄についても理解して臓器提供を決断される姿にいつも頭が下がる思いです。私に関わらせていただいたあるドナーのご家族から「宮崎県で臓器提供が行われていることを知ってもらえば、次につながり、宮崎での臓器移植医療が発展すると思うので公表について何も躊躇することはないです」とお聞きしたときには、大事なご家族を亡くするという絶望的な境地の中で、宮崎県の移植医療の発展につなげたいという思いになんと崇高なご家族だろうと深く感動したことは忘れられません。

このように一例、一例それぞれにドナーご本人やご家族の想いが積み上げられて達成された脳死下での臓器提供1,000件です。臓器移植医療は、臓器を提供してくださる方がいて初めて成り立ち、救われる命があると同時に、一つの尊い命が失われた上にあり、その“いのち”に対する厳粛な思いも忘れてはいけないうところ です。

（臓器移植コーディネーター 中川かな子）



心停止後と脳死下の臓器提供者合計数は2019年の125件が最大で、年間100件前後で推移してきました。

コロナ禍で一時減少したものの、臓器提供は増加傾向にあります。

脳死下臓器提供は、法改正前は全体の1割程度でしたが、現在は8割を占めるようになりました。

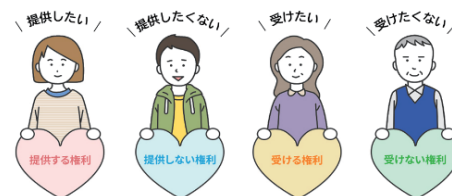
私たちは、働く皆様に
「快適な眠り」で支えます。

東洋羽毛について
詳しくはこちらをご覧ください

TUK 東洋羽毛九州販売株式会社
〒890-0063 鹿児島県鹿児島市鶴池1-64-25 ウイング鶴池1-B ☎0120-881-125

鹿児島営業所

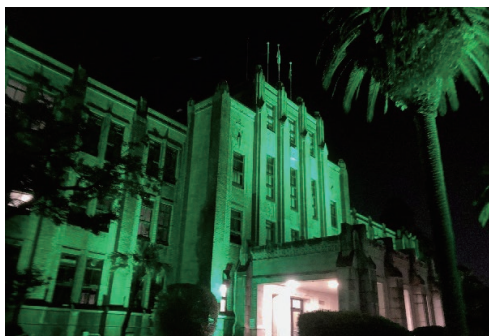
家族と話そう臓器提供の意思表示



私たちは、臓器移植に関して4つの権利を持っており、どの考え方も自由に選択でき、尊重されます。突然訪れる死後の臓器提供では、最終的に家族の承諾が必要となります。元気なうちに家族と話し合い、臓器提供の意思を示しておくことであなたの思いをかなえることができます。

臓器移植普及推進月間の取組

臓器移植普及推進月間である10月に、県や市町村、一般社団法人宮崎県腎臓病協議会等と連携して、臓器移植に関する様々な普及啓発活動を実施しました。



県庁本館グリーンライトアップ（10/15～21）



（イオンモール宮崎 10/2～7）



（県電ホールギャラリー 10/10～23）

ポスター展示・リーフレット配布

🎀 グリーンリボンキャンペーン 🎀

令和5年10月1日（日）には、イオンモール宮崎でグリーンリボンキャンペーンを開催しました。

ヒナタテラスのステージには、今年もバルーンツイスターゆーき&リリーさんにご出演いただき、家族連れや若者など多くの方が見守る中、素敵なおバルーンアートを披露してくれました。ショーの途中には中川コーディネーターも登壇し、ゆーきさんたちとの楽しい掛け合いの中で、コーディネーターの職務内容や臓器提供の意思表示の必要性などについてお話ししました。

レストランコートの展示ブースでは、臓器移植に関するポスターやバナーの展示、ビデオ上映、リーフレット配布のほか、「あなたにもしもの時が来たときあなたの大切なものをどうしてほしいか」を考えたもらう「喪失疑似体験」のコーナーも設置しました。今年も、展示ブースの運営や啓発グッズ等の配布には、一般社団法人宮崎県腎臓病協議会と宮崎県難病団体連絡協議会の皆さまに御協力いただきました。



「次は何ができるかな？」
聴衆の目はショーにくぎ付け！



臓器提供の意思表示の必要性を
わかりやすくお伝えしました。



展示ブースでは、多くの方が
足を止めて見てくれました。

○ 腎臓移植フォーラム 2023 in みやざき（主催：一般社団法人宮崎県腎臓病協議会ほか）

一般社団法人全国腎臓病協議会と一般社団法人宮崎県腎臓病協議会の共催による「腎臓移植フォーラム 2023 in みやざき」が、令和5年10月29日（日）に宮崎市民プラザで開催されました。

みやざき“いのちのリレー”ポスターコンテスト2023表彰式の後、県立宮崎病院の三浦敬史外科医長と当財団の中川かな子臓器移植コーディネーターによる講演が行われました。

また、二人の講師と臓器移植を受けた三家族、県立宮崎病院の中房祐樹外科医長、同病院の大田弘恵レシピエントコーディネーターをパネリストとして、「実際に臓器移植を受けて」というテーマでパネルディスカッションが行われました。

移植体験者からは、待機期間が長く何度も諦めようと思ったことや移植を受けることができたことへの感謝の思いが語られたほか、県立宮崎病院における患者支援の取組や、院内職員への研修・ドナーデテクション等の院内臓器提供体制強化のための取組の紹介などがあり、参加者は熱心に聞き入っていました。



パネルディスカッションでは、臓器移植経験者の
貴重なお話を聞くことができました

年間を通じた取組

出前講座

臓器移植の内容や現状などについて、正しく理解していただくため、当財団では、臓器移植コーディネーターや臓器移植を経験された方を講師として派遣する「出前講座」を無料で実施しています。

(1) 医療従事者養成校

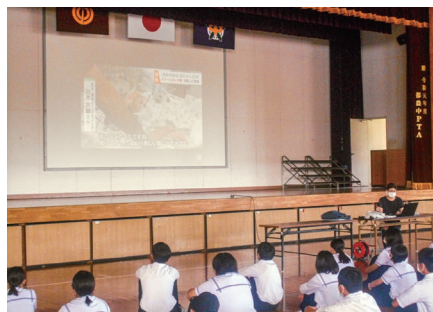
臓器移植を必要とする患者さんに適切に対応していくとともに、終末期にある患者やその家族を支援していく上で、医療従事者が臓器移植について正しく理解しておくことが重要です。

そのため、当財団では、看護学校などに出向いて、臓器移植の現状や患者と家族に対する支援の方法等について講義を行っています。一般社団法人宮崎県腎臓病協議会の御協力をいただき、御要望に応じて臓器移植経験者のお話も聞くことができます。

令和5年度は、12月までに6校で実施しました。



(2) 中学・高校



若い世代の方々に臓器移植について正しく理解していただき、「命の大切さ」や、臓器提供に込められた「優しさ」や「思いやりの心」などについて考える機会としていただくため、中学・高校でも出前講座を実施しています。

令和5年7月には都農町立都農中学校を訪問し、「いのちの講演会」の中でお話しました。講演後の感想には、自分自身の臓器提供についての考えだけでなく、家族が移植が必要になったとき、臓器提供する側になったときの考えについても書かれており、それぞれの立場に立ったときにどう思うかということにまで考えを広げてくれたことが感じられ、改めて自分自身の“いのち”について見つめる機会になっていただけたのではないかと思います。

医療機関における臓器提供体制づくりの支援

宮崎県は臓器提供に対応できる12の医療施設を腎臓提供協力病院として指定しています。これらの病院では、臓器提供の意思をお持ちの方やそのご家族の想いを適切に汲み取ることができるよう院内体制の整備に取り組んでおり、当財団では連絡会議の開催等により体制整備・強化を支援しています。

★ 第1回腎臓提供協力病院連絡会議

各腎臓提供協力病院の移植情報担当者（医師、看護師等）を対象とした第1回連絡会議を宮崎県と共催して10月31日に県立宮崎病院講堂で開催しました。会場参加とWEB参加のハイブリッド形式で開催し40名の参加がありました。

当財団の臓器移植コーディネーターが臓器提供の現状等について説明した後、日立総合病院救命集中治療科の小山泰明主任医長から「“つなぐ医療”をつなげるためにすべての医療従事者に伝えたい事」の演題で、ご家族に臓器提供の機会があることをお知らせする「情報提供」について御講演いただきました。

小山先生は、「臓器提供をされたご家族へのアンケートの中で、何がきっかけで臓器提供を考えるようになったかを尋ねたところ、「医療者から臓器提供のことを聞いたから」と答えた方が最も多かった。家族は、本人が臓器提供の意思表示をしていることを医療従事者にいつ伝えればいいのか分からない。そのため、医療者の方から臓器提供の意思を確認することが重要であり、終末期の患者がより良い最期を迎える支援へとつながる」とお話しされました。

現在、国において「情報提供」が確実に実施される仕組みの構築に向け実施状況の調査などが行われており、参加者は熱心に聞き入っていました。



【腎臓提供協力病院】 (12施設)

宮崎善仁会病院、潤和会記念病院、県立宮崎病院、宮崎大学医学部附属病院、
県立日南病院、藤元総合病院、都城市郡医師会病院、西都児湯医療センター、
千代田病院、延岡共立病院、県立延岡病院、宮崎市郡医師会病院

賛助会員・寄付の募集について

当財団の運営は、活動の趣旨に御賛同いただいた方々からの賛助会員会費や寄付金で支えられています。

特別賛助会員（法人・団体） 年会費：1口 2万円～

一般賛助会員（個人） 年会費：1口 千円～

寄付金については、任意の金額を御寄付いただく「**一般寄付**」と各職場や団体でお一人 100 円ずつ御寄付いただく「**100 円寄付**」をお願いしており、賛助会費、寄付金ともに随時受け付けております。

令和5年1月から12月までに御支援いただいた方々を御紹介します。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

特別賛助会員ご芳名（75法人・団体）

※ 50 音順、敬称略 ※ 公表に御承諾いただいた方のみ掲載

家村内科	一般社団法人宮崎県銀行協会	一般社団法人宮崎県歯科医師会
一般社団法人宮崎県薬剤師会	一般社団法人宮崎県臨床検査技師会	医療法人恵喜会西都病院
一般社団法人宮崎市郡歯科医師会宮崎歯科福祉センター		医療法人恵修会 川名クリニック
医療法人育成会矯正・小児ひまわり歯科	医療法人慶仁会ふくどめクリニック	医療法人健寿会黒木病院
医療法人憲優会オーシャンクリニック	医療法人けんゆう会園田病院	医療法人財団シロアム会新城眼科医院
医療法人さみどり会沖内科・小児科医院	医療法人社団紫陽花会わたなべ小児科	医療法人社団弘文会松岡内科医院
医療法人社団紘和会平和台病院	医療法人社団 児玉小児科	医療法人社団修養会盛田内科クリニック
医療法人社団昇陽会たまきクリニック	医療法人社団仁和会竹内病院	医療法人社団日高アイレ HD クリニック
医療法人社団百喜会上野医院	医療法人社団福生会ふくだ泌尿器科	医療法人十全会みのだ泌尿器科医院
医療法人春光会春光会記念病院	医療法人仁愛会横山病院	医療法人清仁会菊池耳鼻咽喉科医院
医療法人聖美会南宮崎マモト腎泌尿器科	医療法人清和会共立医院	医療法人誠和会和田病院
医療法人徳志会すぎお医院	医療法人 芳徳会	医療法人宮崎中央ふかお透析内科クリニック
医療法人養気会池井病院	医療法人よしき会どんぐりこども診療所	医療法人緑耀会小緑内科クリニック
医療法人和真会 東内科クリニック	雲海酒造株式会社	大淀開発株式会社
落合内科	株式会社テレビ宮崎	株式会社 ハンズマン
株式会社宮崎日日新聞社	株式会社宮崎放送	清本鉄工株式会社
霧島ホールディングス株式会社	県立宮崎病院	公益財団法人宮崎県健康づくり協会
公益社団法人宮崎県医師会	公益社団法人宮崎県看護協会	小林市立病院職員互助会
コマツ宮崎株式会社	西都農業協同組合	社会医療法人泉和会千代田病院
社会医療法人同心会古賀総合病院	住友生命保険相互会社宮崎支社	税理士法人アイビーパートナーズ
第一生命保険株式会社宮崎支社	地方独立行政法人西都児湯医療センター	特定医療法人健腎会おおぬきクリニック
特定医療法人健腎会おがわクリニック	花房泌尿器科医院	福井プロパン商事株式会社
都城市郡医師会病院ナース会	宮崎ガス株式会社	宮崎ケーブルテレビ株式会社
宮崎県アイバンクライオンズ協力会	宮崎県透析医会	宮崎市郡医師会病院
宮崎電子機器株式会社	山下医院	有限会社 蛭原木材工業

一般賛助会員ご芳名（58 個人）

※ 50 音順、敬称略 ※ 公表に御承諾いただいた方のみ掲載

壹岐 和彦	今村 公則	今村 清美	岩崎 恵子	岩見 晶臣	牛牧 貴子
内田 俊浩	大野 たき子	小川 智巳	甲斐 恵子	柏田 大樹	鎌田 伸次
川越 辰也	川越 正敏	川野 美奈子	久保 範通	古賀 正広	小牧 直裕
小牧 斎	佐多 能成	澤野 文俊	重盛 俊郎	重黒木 清	正入木 和久
新藏 隆	高山 修二	田場 香織	近間 良子	鶴田 まゆみ	留野 健一郎
外山 景一	中澤 紀代美	永友 政行	永野 秀子	中山 千穂子	橋本 文人
濱田 潤子	濱田 政雄	日高 孝治	前田 広樹	松田 のり子	松永 昌之
松本 卓也	宮田 純一	山内 良澄	吉山 政子		

一般寄付者ご芳名（44団体・個人）

※ 50 音順、敬称略 ※公表に御承諾いただいた方のみ掲載

医療法人社団 児玉小児科		医療法人社団六参会まつばし川野整形外科		医療法人尚生会上田内科			
学校法人宮崎日本大学学園		株式会社三洋環境社プランナー			社会医療法人慶明会生目眼科クリニック		
社会福祉法人浄信会幼保連携型認定こども園みまつ				宮崎オーシャンライオンズクラブ			
県医療政策課		県衛生環境研究所		県衛生管理課		県感染症対策課	
県健康増進課		県国民健康保険課		県こども家庭課		県こども政策課	
県障がい福祉課		県長寿介護課		県延岡保健所		県福祉保健課	
県都城保健所		県業務対策課		有村 公輔	安在 厚生	岩切 孝	片寄 智也
亀元 耕一	川路 智彦	窪 かおり	佐藤 寿	澤野 文俊	武山 哲也	松枝 修	西田 日出夫
西田 由美子	藤本 茂	三城 敏裕	宮永 齊	村社 康浩	守屋 喜代	山路 健	吉玉 典生
渡部 満芳							

100 円寄付者ご芳名（422所属） ※50音順、敬称略 ※公表に御承諾いただいた方のみ記載。官公庁は自治体名のみ記載。

一般財団法人宮崎県公衆衛生センター	学校法人日章学園宮崎医療福祉専門学校		カリタスの園児童養護施設竹の寮
川南町食生活改善推進協議会	川南ライオンズクラブ	九州保健福祉大学	串間ライオンズクラブ
国富町商工会	公益財団法人宮崎県建設技術推進機構		公益財団法人宮崎県産業振興機構
小林こすもすライオンズクラブ		西都商工会議所	児童養護施設さくら学園
社会福祉法人石井記念友愛社児童養護施設石井記念有隣園			社会福祉法人春光会
社会福祉法人晴陽会うからの里高鍋事業所		社会福祉法人富高福祉会富高保育園	
社会福祉法人日章福祉会 日章野菊の里		社会福祉法人芳和会 和保育園	社会福祉法人友隣会 ワークセンター悠々工房
障害者支援施設 白浜学園	障害者支援施設清友の里	荘内商工会	全国健康保険協会宮崎県支部
都農町食生活改善推進協議会	鵬翔高等学校	鵬翔高校看護専攻科1年生一同	都城北ライオンズクラブ
都城きりしまライオンズクラブ	都城市郡医師会病院	都城シティライオンズクラブ	都城ライオンズクラブ
宮崎北ロータリークラブ	宮崎県後期高齢者医療広域連合	宮崎県国民健康保険団体連合会職員有志一同	
宮崎県職業能力開発協会	宮崎県中小企業団体中央会	宮崎東ロータリークラブ	養護老人ホーム鈴峰園
宮崎県庁（76 所属）	宮崎市役所（89 所属）	都城市役所（29 所属）	延岡市役所（6 所属）
日南市役所（5 所属）	小林市役所（35 所属）	日向市役所（26 所属）	串間市役所（9 所属）
西都市役所（23 所属）	えびの市役所	三股町役場（12 所属）	高原町役場
国富町役場	綾町役場	高鍋町役場	新富町役場
西米良村役場（10 所属）	川南町役場（9 所属）	都農町役場	門川町役場（12 所属）
諸塚村役場	美郷町役場（15 所属）	高千穂町役場（14 所属）	日之影町役場

◎ 支援型自動販売機の設置に御協力いただいている施設（2箇所 50音順、敬称略）

川南町保健センター（コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）	都城保健所（宮崎県農協果汁株式会社）
--------------------------------	--------------------

◎ 普及啓発資材作成に助成いただいた団体（敬称略）

赤い羽根共同募金会	宮崎県社会福祉協議会（ふるさと愛の基金）
-----------	----------------------

◎ 情報誌「MOTTO（vol.48・財団設立 30 周年記念号）」に広告協賛いただいた企業等（50 音順、敬称略）

医療法人恒昇会タカオ眼科	医療法人社団絃和会平和台病院
医療法人養気会池井病院	医療法人社団日高アイレ HD クリニック
株式会社興電舎	公益財団法人宮崎県健康づくり協会
さわの内科クリニック	

◎ 情報誌「MOTTO（vol.50）」に広告協賛いただいた企業等（50 音順、敬称略）

医療法人養気会池井病院	社会医療法人同心会古賀総合病院
東洋羽毛九州販売株式会社	

賛助会員・寄付金募集への御協力をお願いします

当財団の事業運営に係る収益は、基本財産の運用益が僅かで収益事業もないため、県からの補助金と日本臓器移植ネットワークからの助成金が主なものとなっており、それだけでは不足するため、当財団の活動の趣旨に御理解をいただく方々からの賛助会費や寄付金が当財団の事業を支える貴重な財源となっています。今後も、臓器移植を推進するため、普及啓発や医療機関の臓器提供体制強化支援等に取り組んでいく所存ですので、温かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

賛助会員会費と寄付金の金額等については次のとおりお願いしております。

賛助会費（法人、団体）：1口 2万円～

賛助会費（個人）：1口 千円～

一般寄付（法人、団体、個人）：金額は任意

100 円寄付（所属、団体）：
一人 100 円ずつ寄付し、所属でまとめて送金

なお、当財団にお寄せいただいた賛助会費や寄付金については、税の優遇措置を受けることができます。

賛助会員・寄付のお申込みや税の優遇措置等につきましては、ホームページをご覧ください。事務局にお電話でお問い合わせください。

支援型自動販売機設置のお願い

支援型自動販売機は、飲料メーカーの御協力を得て、自動販売機で購入した飲み物代金の一部を特定の事業を行うことを目的とする法人等に寄付していただくもので、現在、当財団を支援いただく自販機は川南町保健センターと都城保健所の2か所に設置していただいております。

飲料の販売額に応じて納入される寄付金は当財団の貴重な活動費となるほか、自販機自体が臓器移植の広告塔となる効果もあり、大きな支援となります。自販機の新設、更新を行われる際には、支援型自動販売機の設置を御検討くださいますようお願いいたします。



臓器移植のことを学んでみませんか ～ 出前講座のご案内

当財団では、医療従事者養成機関や中・高校などに臓器移植コーディネーターを派遣し、臓器移植医療の内容や現状などについて説明する出前講座を実施しています。（5ページをご参照願います）中学・高校への派遣回数はまだ少ないですが、「いのちの大切さ」を考える機会としてお役に立てているものと感じており、今後も多くの学校に派遣できればと考えています。講師派遣に関する謝金や旅費等は不要ですので、各学校におかれては、出前講座の受け入れについて御検討いただきますようお願いいたします。

出前講座のお申込みや詳しいことをお知りになりたい方は、財団ホームページをご覧ください。事務局にお電話でお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

公益財団法人
宮崎県移植推進財団

電 話 0985-25-3106
ホームページ <https://m-is yokusuisin.com/>

ホームページ QR ▶

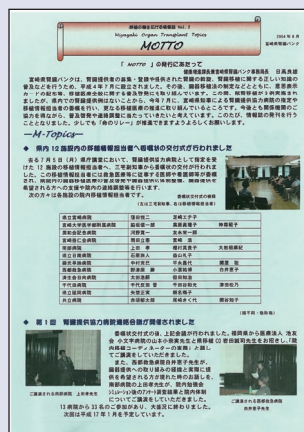


編集後記

当財団の情報誌「MOTTO」第1号が発行されたのは、2004（平成16）年8月のことで、第1号はA4サイズ1枚（両面刷り）でした。紙面には、その年の7月に県から12の医療施設が腎臓提供協力病院に指定され、各病院の移植情報担当者に当時の副知事から委嘱状が交付されたことや、今後、情報誌発行等により「命のリレー」の推進に取り組んでいく旨が記載されており、当時の担当者の熱い思いが伝わってきます。

それから20年となる2024年1月に第50号を発行する運びとなりました。これまでの皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。臓器移植に対する県民の理解は広がってきていますが、臓器提供にはなかなか結び付かない現状があります。県民の皆さんにもっともとわかりやすく有益な情報をお届けすることができるよう、本号から「MOTTO」をカラー印刷で発行させていただくことといたしました。多くの皆さまのご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（F. H）



MOTTO第1号の表紙